

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国際学研究入門	国際学研究科 共通科目	1	2	国際学の学問的領域と修士論文の要諦について講義するとともに、国際学にかかわる基本的な文献を講読する。また、広く学術論文の意味、注意すべき点、理解の仕方、書き方などを修得するため、教員の講義と学生の演習を組み合わせた授業を展開する。なお、学部時代に卒業論文を課せられなかった学生、学部時代は他の分野での学修を主とした学生のためにも、基礎的な事柄を重視して授業を進めていく。	国際学の学問的領域について理解し、研究上の問題意識を養ったうえで、修士論文の作成法について十分に理解できるようになる。	国際学の学問的領域について理解し、研究上の問題意識を養ったうえで、修士論文の基本的な作成法について理解できるようになる。
国際学総合研究	国際学研究科 共通科目	2	2	国際学にかかわる多様な文献を講読し、その内容を報告し、それに対する質疑応答を行い、理解を深める。学生はすでに1年次において指導教員が担当する「国際学演習I」国際学演習II」を履修し、修士論文の作成に向けて一歩を踏み出しているが、各自の研究を研究分野の異なる教員の指導を受けることによって、より幅広い視点から深めていく。	各学生が自らの研究をさらに深めるために国際学の観点から考察し、分析・整理の方法を十分に理解できるようにになる。	各学生が自らの研究をさらに深めるために国際学の観点から考察し、基本的な分析・整理の方法を理解できるようにになる。
日本文化研究III (社会)	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	日本の近代社会の文化的特質について高度な学識を修得し、説明できる能力を身につけることを目標とする。授業では、明治維新から第二次世界大戦期までを対象とし、文化的観点から政治・社会の諸問題を取り上げ、教員が精深な講義を行うとともに、それに関係した事項について、学生が資料等を用いて説明する演習形式の授業も併せて行う。具体的にどのようなテーマを取り上げるかは、受講する学生の研究するテーマを勘案しながら、学期開始直後に決める。	日本の近代社会の文化的特質について高度な学識を修得し、説明できるようになる。	日本の近代社会の文化的特質について一定レベルの学識を修得し、説明できるようになる。
日本文化研究IV (社会)	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	日本の現代社会の文化的特質について高度な学識を修得し、説明できる能力を身につけることを目標とする。授業では、第二次世界大戦後から高度経済成長期までを対象とし、文化的観点から社会の諸問題を取り上げ、教員が精深な講義を行うとともに、それに関係した事項について、学生が資料等を用いて説明する演習形式の授業も併せて行う。具体的にどのようなテーマを取り上げるかは、受講する学生の研究するテーマを勘案しながら、学期開始直後に決める。	1.日本文化について、その歴史や社会との関係等を的確に理解し、説明できる。(知識・理解・表現力) 2.授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、日本文化の歴史や社会との関係について、主體的かつ積極的に理解しようと努めている。(関心・意欲・態度)	1.日本文化について、その歴史や社会との関係等がある程度まで説明できる。(知識・理解・表現力) 2.授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、日本文化の歴史や社会との関係について、ある程度までは理解しようと努めている。(関心・意欲・態度)
日本文化研究V (言語文化)	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	日本の言語文化の代表として、近代・現代の小説を取り上げる。内容・構成の分析、登場人物・舞台設定・時代背景の検討など、作品を詳細に読み解くことによって日本文化・言語文化の本質に迫る。	文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質を認識できる。(知識・理解) 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。(思考・判断・分析) 適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。(技能)	文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質をある程度まで認識できる。(知識・理解) 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようの基礎的な抽出・分析ができる。(思考・判断・分析) 分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。(技能)
日本文化研究VI (言語文化)	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	日本の言語文化の代表として、近代・現代の小説を取り上げる。内容・構成の分析、登場人物・舞台設定・時代背景の検討など、作品を詳細に読み解くことによって日本文化・言語文化の本質に迫る。	文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質を認識できる。(知識・理解) 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようを抽出・分析することができる。(思考・判断・分析) 適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。(技能)	文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質をある程度まで認識できる。(知識・理解) 文学が描く人間や社会背景の複雑なありようの基礎的な抽出・分析ができる。(思考・判断・分析) 分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。(技能)
日本文化研究VII (日本語)	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	授業では、語彙論や語構成論、語種など単語に関わる研究分野と形態論や構文論、談話分析といった文法に関わる研究分野の中から研究テーマに合わせていくつかのトピックを選択し、講義と合わせて、論文を読みながら考察を進める。	現代日本語を対象とした日本語学の諸分野における研究方法および先行研究の成果について高度な学識を修得し、適切な説明ができるようになる。	現代日本語を対象とした日本語学の諸分野における研究方法および先行研究の成果について基本的な学識を修得し、説明ができるようになる。
日本文化研究VIII (日本語)	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	テンスやアスペクト、ヴォイス、モダリティといった文法項目のなかからいくつかを取り上げ、講義と合わせて、論文を読みながら考察を進める。他言語との対照研究という視点からも分析を行う。また、具体的な用例を収集しながら、分析・考察を進める方法についても演習を行う。	現代日本語について対照研究という視点から高度な学識を修得し、適切な説明できる。	現代日本語について対照研究という視点から基本的な学識を修得し、説明ができるようになる。
日本語表現法I (口頭表現)	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	大学院での研究活動を円滑に進めるために、口頭発表の聞き取りと、発表、質疑応答の仕方を身につける。	外国人留学生在が日本語で口頭発表を行う際に必要とされる技能を十分に修得している。(技能)	外国人留学生在が日本語で口頭発表を行う際に必要とされる技能を概ね修得している。(技能)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
日本語表現法II (文章表現)	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	学術的文章の書き方を段階的に学ぶために、論文の各部分の構成要素、それぞれの構成要素に見られる文型・表現・基本的ルール、そして、それらによって構築される典型的な文章の展開パターンを学習し、日本語で論文を書く際の論文の組み立て方、論文を書くための知っておかなければならない規則を身につける。	外国人留学生が日本語で論文を執筆する際に必要とされる技能を十分に修得している。(技能)	外国人留学生が日本語で論文を執筆する際に必要とされる技能を概ね修得している。(技能)
中国文化研究I (歴史)	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	1・2	2	英語研究文献を読み、清代の中国の社会制度について考察する。	・中国史について書かれた英語のテキストを、専門用語や固有名詞を含めて、適切な日本語に翻訳することができる。(知識・理解) ・テキストに書かれている内容を、十分に理解することができる。(知識・理解) ・テキストの内容を適切に要約して、わかりやすく報告することができる。(思考・判断・表現) ・テキストを十分に理解するのに必要な歴史的知識を十分にそなえている。(知識・理解) ・テキストのテーマについての研究史を理解している。(知識・理解) ・テキストのテーマについて、自分の見解を述べるすることができる。(思考・判断・表現)	・中国史について書かれた英語のテキストを、基本的に、日本語に翻訳することができる。(知識・理解) ・テキストに書かれている内容を、基本的に、理解することができる。(知識・理解) ・テキストの内容を要約して報告することができる。(思考・判断・表現)
中国文化研究II (歴史)	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	1・2	2	英語研究文献を読み、清代の中国の行政制度について考察する。	・中国史について書かれた英語のテキストを、専門用語や固有名詞などを含めて、適切な日本語に翻訳することができる。(知識・理解) ・テキストに書かれている内容を、十分に理解することができる。(知識・理解) ・テキストの内容を適切に要約して、わかりやすく報告することができる。(思考・判断・表現) ・テキストを十分に理解するのに必要な歴史的知識を十分にそなえている。(知識・理解) ・テキストのテーマについての研究史を理解している。(知識・理解) ・テキストのテーマについて、自分の見解を述べるすることができる。(思考・判断・表現)	・中国史について書かれた英語のテキストを日本語に翻訳することができる。(知識・理解) ・テキストに書かれている内容を、基本的に、理解することができる。(知識・理解) ・テキストの内容を、要約して報告することができる。(思考・判断・表現)
中国文化研究III (社会)	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	1・2	2	中華人民共和国の成立と展開、および分断国家(台湾)との関係性について、「政治」の視角を中心に考察していく。中国政治と統治機構の仕組みを理解した上で、新中国建国以降の主要な政治運動である「大躍進」・「文化大革命」(ならびに同時期の台湾での動向)に焦点を合わせ、当該期間に関する文献・資料、先行研究を踏まえて教員が講義を行う。また、演習方式も取り入れながら、諸問題について学生自身が分担を決めて調査を行い、その成果を発表する。	中華人民共和国の成立とその展開を「政治」の視角から考察することによって、中国政治と統治の仕組みを理解し、中国社会ならびに兩岸関係の変容を分析する能力を持つことができる。	中国政治の仕組みを理解し、新中国建国以降の主要な政治運動に関する最低限の内容を説明することができる。
中国文化研究IV (社会)	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	1・2	2	改革・開放政策の下で経済発展を遂げた中国社会の変化のみならず、台湾で生じた政治的变化が兩岸関係および域内秩序に及ぼした変化をもたらしたかなどを中心に、現代中国社会における構造変動について検討する。具体的には、改革・開放政策、台湾の民主化、香港返還、一帯一路構想などの課題について考察する。学生にも定期的に報告してもらい、変動し続ける兩岸関係も注視しつつ将来の展望を試みたい。	改革開放後における現代中国社会および民主化後の台湾の構造変動を理解し、経済発展がもたらした社会の変容および兩岸関係の今後についても分析する能力を持つことができる。	改革開放後における現代中国社会および兩岸関係をめぐる構造変動を理解し、経済発展がもたらした社会・地域秩序の変容に関する最低限の内容を説明することができる。
中国文化研究VII (言語文化)	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	1・2	2	現代の中国語がどのように形成されて来たかを研究し、中国語というものについて総合的見識を深めるとともに、これを一定程度説明できるようになることを目標とする。授業では、元・明の戯曲小説を教材として取り上げる。まず教員が中国の戯曲・小説の歴史と特色について講義して予備知識を授け、ついで学生が分担発表する演習形式によって具体的な読解を行い、これらを通して現代中国語の原点というべき姿に親しむとともに、近世以前から一貫して備わっている中国語の言語的特性について理解を深め、これを一定程度説明できるようになる。	中国の戯曲・小説の歴史と特色について、実例を挙げて説明することができる。(知識・理解・表現) 現代中国語の原点というべき姿に親しむ事により、近世以前から一貫して備わっている中国語の言語的特性について理解を深め、これを例とともに説明できる。(思考・判断・表現)	中国の戯曲・小説の歴史と特色について、或る程度自分の言葉で説明することができる。(知識・理解・表現) 現代中国語の原点というべき姿に親しむ事により、近世以前から一貫して備わっている中国語の言語的特性について認識し、これを或る程度自分の言葉で説明できる。(思考・判断・表現)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
中国文化研究 VIII（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	1・2	2	現代の中国語の形成過程を考察して、中国語について歴史的な理解を深め、その奥行きについて見識を持ち、かつ説明できるようになることを目標とする。授業では、近代の小説、とくに魯迅から老舍、巴金の作品を取り上げる。まず教員が近代の小説史について、歴史的・社会的背景を含めて講義して予備知識を授け、ついで学生が分担発表する演習形式によって個々の作品を精読、これら一連の過程を通して、それらの多種多様な表現の伝統の蓄積を実感し、近代の言語表現と古代以来の伝統との連続性を認識し、それらを一定程度説明できるようになる。	近代の小説史について、歴史的・社会的背景を含めて把握し、いくつかの個々の作家とその作品について、例とともに説明することができる。（知識・理解・表現） また、近代の言語表現と古代以来の伝統との連続性を認識し、それらを例とともに説明することができる。（思考・判断・表現）	近代の小説史について、或る程度歴史的・社会的背景を含めて把握し、個々の作家とその作品について、特色や意義を説明することができる。（知識・理解・表現）
中国語表現法I	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	1・2	2	中国語表現の特徴を学ぶことによって中国語的確な読解力、表現力を習得することを目標とする。授業では文学作品、映画、新聞・雑誌、論文など多様な教材を用い、それらの翻訳や漢字による表現の検討を通して日中両国の言語の特色について考える。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。かつ、中国語と日本語の文法的特質が考察できる。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。
中国語表現法II	国際学研究科 国際文化系科目 中国文化研究	1・2	2	「中国語表現法I」を受け、中国語による発信力の練磨と説明能力の涵養を目標とする。授業では教材の翻訳や漢字による表現の検討を通して、日中両国の言語の特色について考える。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。かつ、言語習慣上の相違がコミュニケーションに及ぼす影響について考察できる。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。
ヨーロッパ文化研究I（歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	近現代ヨーロッパ史について、文献講読を通してその概要を体系的に修得するとともに、個々のテーマについての研究史、研究動向にも目を配ることで、ヨーロッパ史研究の現状についても認識を深めることをねらいとする。この授業では、フランス革命から第1次世界大戦に至る19世紀を対象とする。各項目にかんしては文献の記述内容に限定せず、自主的な調査によって、関連する歴史事象についての課題に取り組み、授業時において報告を行うこととする。	ヨーロッパ近現代史についての概観的知識を習得するとともに、個別のテーマについての理解を深めることができるようになる。	・ヨーロッパ史にかんする俯瞰的知識を歴史学の基本概念とともに身に付ける。（知識・理解） ・専門的な文献を日本語、英語を問わず、基本的に理解し、要約することができる。（知識・理解）
ヨーロッパ文化研究II（歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	近現代史ヨーロッパ史について、文献講読を通してその概要を体系的に修得するとともに、個々のテーマについての研究史、研究動向にも目を配ることで、ヨーロッパ史研究の現状についても認識を深めることをねらいとする。この授業では、第1次世界大戦から第2次世界大戦後のヨーロッパ統合、冷戦とその終結にいたる20世紀を対象とする。各項目にかんしては文献の記述内容に限定せず、自主的な調査によって、関連する歴史事象についての課題に取り組み、授業時において報告を行うこととする。	ヨーロッパ近現代史におけるナショナリズムの歴史についての英語文献を読み、このテーマにかんする理解を深め、かつ英語文献の読解能力を高める。	・ヨーロッパ史にかんする俯瞰的知識を歴史学の基本概念とともに身に付ける。（知識・理解） ・専門的な文献を日本語、英語を問わず、基本的に理解し、要約することができる。（知識・理解）
ヨーロッパ文化研究III（社会）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	国民国家によって成立していたヨーロッパの社会は、グローバル化、EU統合などの国境の相対化によって、また、第二次世界大戦後の旧植民地からの移民出身市民の増加によって、現代ヨーロッパ社会は大きく変化している。この授業は、現代ヨーロッパ社会が抱える諸問題について理解することを目標とする。現在のヨーロッパ社会にかんするおもに社会学の分野における古典的な文献講読を取り上げ、精読する。	ヨーロッパ社会に関連する古典的な文献を読みながら、テキストを批判的に読み、抽象的な理論を現実の社会と結びつけ、自分自身の議論を組み立てることができるようになる。（知識・理解）	ヨーロッパ社会に関連する古典的な文献を読みながら、テキストを批判的に読めるようになる。（知識・理解）
ヨーロッパ文化研究IV（地域）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	この授業は、人間の営為により生産された一つの文化地域としてのヨーロッパを総合的に分析し理解するための知識と技術を習得することを目的とする。近年のヨーロッパでは、国民国家の地位の相対的低下やグローバル化の進行により、国家の陰に隠れていた地域が顕在化したり、新たな地域間協力の枠組みが登場するなど、空間の再編成が進行中である。こうした現象を空間的視座から論じた資料を講読し、その内容について議論する。	1. 系統地理学の専門知識をもって、文化地域としてのヨーロッパを理論的に説明できる。（知識・理解） 2. 近年のヨーロッパを取り巻く様々な変化を、空間論、地域論などの地理学の専門的知識を用いて理論的に説明できる。（知識・理解）	1. 系統地理学の知識をもって、文化地域としてのヨーロッパを一定程度説明できる。（知識・理解） 2. 近年のヨーロッパを取り巻く様々な変化を、空間論、地域論などの地理学の知識を用いて一定程度説明できる。（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
ヨーロッパ文化研究Ⅴ（芸術）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	視覚的に表現されたもの（イメージ）を文化史や社会史の枠組みでとらえることの意味を理解し、長い歴史をもつ美術史を土台にしつつ近現代における表象を通してその文化的状況を判断する力を涵養することを目標とする。この授業では、ヨーロッパの美術史の基礎を成す美術理論の基本的文献講読を行い、図像の意味、解釈、表現様式、主題についてなど美術作品をさまざまな角度から分析する方法を学ぶ。その上で、学生が各自具体的な表象を選んで課題に取り組み、授業時に報告をする。	ヨーロッパの文化を理解する方法として美術史を通して視覚的に表現されたものを考察する学問的方法論を学び、造形表現によって文化論を十分論理的に展開できるようにする。	ヨーロッパの文化を理解する方法として美術史を通して視覚的に表現されたものを考察する学問的方法論を学び、造形表現によって文化論を展開できるようにする。
ヨーロッパ文化研究Ⅵ（芸術）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	近現代の表象文化を手掛かりにして、言葉によらない表現形式を読み取る方法を涵養する。特にイメージが積極的にポリティカルに利用された時代や事象を取り上げ、イメージがもつ言葉を超えて人々に伝えるメッセージの力を理解するために、特に顕著な例を取り上げて分析する。時代的には20世紀を対象として、その芸術活動及び芸術批評に大きな影響を与えた世紀初頭の主要な芸術活動について時代的・地域的背景を踏まえて考察する。	近現代の表象文化を手掛かりにして、言葉によらない表現形式を正確に読みとく方法と力を涵養する。	近現代の表象文化を手掛かりにして、言葉によらない表現形式を読みとく方法と力を涵養する。
ヨーロッパ文化研究Ⅶ（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	ヨーロッパ英語圏（イギリスとアイルランド）のさまざまな言語文化のかたちとその歴史的背景に関して、高度な学識を有する人材を養成することが目標である。まず言語文化関連研究書の精読を通して、現代イギリス・アイルランドの社会・文化の顕著な特徴を、その歴史的形成過程も含めて、いくつかの角度—例えば、キリスト教の変容と世俗化の影響、階級の再生産と可動性の問題、教育や労働の変化や普及（特に女性の場合）等—から考察する。併行して、文化研究の方法や資料のありかなどを学んでいく。その過程で、受講生が本格的研究の第一歩を踏み出すための指針となるような問題点を見出せるように、授業を進めたい。	ヨーロッパ文化研究の中で、英語圏の文化に関わる内容で修士課程の研究を行う予定の履修者を対象とし、さまざまな言語文化のかたちとその歴史的背景に関して高度な学識を身につけることを目指し、かつ英語の研究文献を読解できるようにする。	・ヨーロッパの言語社会にかんする俯瞰的知識を専門的な基本概念とともに身に付ける。（知識・理解） ・専門的な文献を日本語、英語を問わず、基本的に理解し、要約することができる。（知識・理解）
ヨーロッパ文化研究Ⅷ（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	ヨーロッパ英語圏（イギリスとアイルランド）において、言語によって展開されている文化状況について、高度な学識を有する人材を養成することが目標である。現代イギリス・アイルランド文学の作品群—小説、詩、芝居—を、そのテーマと具体的内容に即して分析・分類し、読み解いていく。扱う作家・作品は、受講生の関心を勘案して選択する。さらに、関連する批評等を読み進め、前期の「ヨーロッパ文化研究Ⅶ（言語文化）」で取り上げた現代文化の特徴や問題点と照らし合わせながら、言語文化として括られる「文化」のあり方と、その「表象」との関係性を考察する。	ヨーロッパ文化研究の中で、英語圏の文化に関わる内容で修士課程の研究を行う予定の履修者を対象とし、言語によって展開されている文化状況について学び現代文化の特徴や問題点と照らし合わせながら、言語文化として括られる「文化」のあり方と、その「表象」との関係性を考察できるようにする。	・ヨーロッパの言語社会にかんする俯瞰的知識を専門的な基本概念とともに身に付ける。（知識・理解） ・専門的な文献を日本語、英語を問わず、基本的に理解し、要約することができる。（知識・理解）
英語表現法Ⅰ	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究 アメリカ文化研究	1・2	2	この授業は、英語で調査や研究の成果を発信し、的確に伝達できる能力を養うことを目標とする。授業では、受講生の専門とする分野や地域に関する英語論文の読み方や、自分の考えを英語で論理的に伝達するために多用される表現を学びながら、それぞれの研究テーマを説明し、調査や研究の結果を報告する。また、報告者の報告に基づいてクラス討論も行うことで、英語による討論の方法や表現法なども習得し、効果的な討論ができるように様々な訓練を行う。期末には、各々の研究を纏めた英文レポートを提出することが求められる。授業は英語で行われる。	This course aims to improve students' abilities to express academic ideas in English, both orally and in writing.	Students will improve their abilities to express academic ideas in English, both orally and in writing.
英語表現法Ⅱ	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究 アメリカ文化研究	1・2	2	「英語表現法Ⅰ」を踏まえ、口頭でも文章でも英語で発信できる能力を養成することを目標とする。授業では、より豊かな語彙力や表現力を身につけるために、英文資料・文献の多読を促しつつ、プレゼンテーションの方法や英文要旨の書き方、英語論文の作成法などについても指導する。受講生は、各々が専門とする分野や地域に関する研究テーマについて書かれた英語資料・文献を読み、その内容について報告を英語で行う。また、授業では、各報告に基づいて英語によるクラス討論も行い、高度な英語表現能力を身につけるように様々な訓練を行うこととする。	Students will improve their their ability to express themselves successfully in spoken and written English.	Students will work to mprove their their ability to express themselves successfully in spoken and written English.

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
フランス語表現I	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	この授業では、フランス語によって専攻分野の研究を行い、その結果を発信する能力を養うことを目標としている。この授業では、フランス語の雑誌や新聞の記事、諸統計、論文などの研究資料を教員が指定し、あるいは学生が持ち寄り、プレゼンテーションやディスカッションを行う。学生の専門とする分野や地域に関する用語や多用される表現に触れ、それらを使用することによって、フランス語による高度で専門的な表現力の訓練を行う。	フランス語によって専攻分野の研究を行い、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、その結果を発信する能力を身に付ける。(知識・理解)(技能)	フランス語によって専攻分野の研究を行い、自分なりの方法で、その結果を発信する能力を身に付ける。(知識・理解)(技能)
フランス語表現II	国際学研究科 国際文化系科目 ヨーロッパ文化研究	1・2	2	この授業では、「フランス語表現法」を踏まえ、フランス語によって専攻分野の研究を行い、その結果を発信する能力を養うことを目標としている。フランス語によって専攻分野の研究を行い、口頭でも文章でも、フランス語で研究成果を発信する能力を養うことを目標とする。授業では、より豊かな語彙や表現力を身につけるために、フランス語の雑誌や新聞の記事、諸統計、論文などを多読しつつ、プレゼンテーションやフランス語作文などを指導する。	フランス語によって専攻分野の研究を行い、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、専門的な語彙や表現力を用いてその結果を発信する能力を身に付ける。(知識・理解)(技能)	フランス語によって専攻分野の研究を行い、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、その結果を発信する能力を身に付ける。(知識・理解)(技能)
アメリカ文化研究I(歴史)	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	アメリカ社会の特異性と普遍性を歴史的に理解し、アメリカ社会とアメリカ人を分析する力を養うことを目標とする。授業では、第二次世界大戦から現代までの時代に焦点を合わせ、「アメリカ人である(になる)」ということは、一体何だろうか。どのような意味なのだろうか」を考える。アメリカ社会における所属機関、地域、階級、人種、民族、性などの複合的な因子が、歴史過程の中でどのように交錯、衝突、交流しながら、アメリカ人のアイデンティティが作られていくのかを分析する。	アメリカ社会の特異性と普遍性を歴史的に理解し、アメリカ社会とアメリカ人を分析する力を養う。	アメリカ社会の特異性と普遍性を歴史的に理解し、アメリカ社会とアメリカ人を分析することができる。
アメリカ文化研究II(歴史)	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	「アメリカ文化研究」を踏まえて、履修者が専攻する地域の歴史や社会問題とアメリカの状況を比較・検討することを目標とする。アメリカ人の多様性を前提に、現代アメリカ社会におけるさまざまなマイノリティの権利闘争、女性運動、新保守とリベラルの対立、脱工業化社会における繁栄と貧困、グローバル化する世界とアメリカなどの問題を取り上げる。履修者が専攻する地域ではこれらの問題がいかなる歴史的経緯で、どのような状況になっているのか、アメリカとの違いは何かを考えることによって、アメリカ社会の特異性と普遍性が再度、確認できるであろう。	アメリカの歴史を、履修者が専攻する地域の歴史的諸問題と比較して理解する。	アメリカの歴史を、履修者が専攻する地域の歴史的諸問題と比較して理解し、説明することができる。
アメリカ文化研究III(社会)	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	毎年多数の移民を世界各地から受け入れている北米国家カナダ。その民族的な多様性に加えて、地域的な多様性が織りなす複雑な社会の統合原理を探り理解する。授業では、主に歴史学と政治学の学術文献を読み、カナダの統合原理について歴史学的な知識と政治学的な理論を身に付ける。その上で、今日におけるカナダ社会の実態と照らし合わせて、従来の研究に対する検証を試みる。	1. カナダの民族的・地域的多様性の実態を、歴史に触れながら説明することができる。(知識・理解) 2. カナダの統合原理について、歴史学的知識や政治学的理論をふまえて説明することができる。(知識・理解) 3. 授業を通じて身につけた批判的な検証能力を活かして、自身の研究テーマに関するレポートを執筆することができる。(思考・判断・表現)	1. カナダの民族的・地域的多様性の実態を、歴史の基本的な事項に触れながら説明することができる。(知識・理解) 2. カナダの統合原理について、基本的な歴史学的知識や政治学的理論をふまえて説明することができる。(知識・理解) 3. 授業を通じて学んだ批判的な検証を、自身の研究テーマに関するレポート執筆において実践することができる。(思考・判断・表現)
アメリカ文化研究IV(社会)	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	アメリカの民主主義や民主主義一般に関する理論を理解し、さらに、このような分析枠組みから各自の研究対象にアプローチすることの意味や重要性について理解することを目標とする。その意味では、アメリカに限らず、比較政治的な視点から各国の政治・社会制度を分析する養育を養うことになる。授業では、まず民主主義がどのようなものとして捉えられてきたかについて理論的に検討する。そのうえで、アメリカ国内における民主主義の歴史的発展と現状について、様々な英文資料を活用しながら考察する。	民主主義理論に関する理解とアメリカの民主主義の実践に関する理解を深め、メディアや学術的文献で議論されているさまざまな国々の政治や社会のあり方について比較政治的、国際的な視点からつねに分析できるようにする。これに加えて、受講者の研究分野において、このような民主主義理論や比較政治・比較社会的枠組みから研究対象にアプローチすることがどのような意味を持つかを考察できるようにする。(知識・理解)	民主主義理論に関する理解とアメリカの民主主義の実践に関する理解を深め、メディアや学術的文献で議論されているさまざまな国々の政治や社会のあり方について比較政治的、国際的な視点からつねに分析できるようにする。(知識・理解)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
アメリカ文化研究V（芸術）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	アメリカ合衆国の芸術は、どのようにその独自性を構築したか、あるいはしなかったか。この点について、いわゆる「ハイ・モダニズム」に属するとされる美術作品および美術批評を具体的に検討することで、受講者各自が考察を深め、またそれぞれに一定の視座を獲得することを旨とする。とりわけ、ふたつの世界大戦を通じてヨーロッパの美術がどのようにアメリカに受容されたかを、いくつかの先行研究の精読と、この問題に関わる作品群を可能なかぎり実見することで、具体的に明らかにする。	アメリカ合衆国による、「異文化」としてのヨーロッパ近現代美術受容について、具体的な美術作品と関連づけながら説明できるようになるとともに、その政治的側面について、批判的に検討できるようになること。	アメリカ合衆国による、「異文化」としてのヨーロッパ近現代美術受容について、具体的な美術作品と関連づけながら説明できるようになるとともに、その政治的側面について、最低限の批判的な検討ができるようになること。
アメリカ文化研究VI（芸術）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	1960年代はじめに登場し、視覚芸術におけるアメリカの優位性を確保するのに大いに寄与したとされるふたつの芸術動向、すなわちポップ・アートとミニマル・アートに焦点を当て、それぞれの具体的な作品とそれにかんする批評のなかに、「アメリカの考えるアメリカ性」を浮き彫りにする。あわせてポップ・アートの後継として1980年代のシミュレーションイズム、またミニマル・アートの後継として1970年代のコンセプチュアル・アートを指定することで、20世紀後半のアメリカ美術史の見取り図を作成することを試みる。	アメリカが1950年代におけるヨーロッパ近代美術という「異文化」の受容を経て、1960年代にアメリカ美術固有の表現語彙＝ヴォキャブラリーを確立するに至った過程について、英語原文から得た諸概念と具体的な作品とを関連づけつつ理解し、説明できるようになること。	アメリカが1950年代におけるヨーロッパ近代美術という「異文化」の受容を経て、1960年代にアメリカ美術固有の表現語彙＝ヴォキャブラリーを確立するに至った過程について、英語原文から得た諸概念と具体的な作品とを一定程度関連づけつつ理解し、説明できるようになること。
アメリカ文化研究VII（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	現代のアメリカ社会や文化の諸問題について、言語文化に焦点をあてて検討し、アメリカの言語文化に関する体系的な知識を身につける。授業では、まず、アメリカの言語文化に関して書かれた基礎的文献を精読し、アメリカの言語文化の多様性を考察する。その上で、アメリカの言語文化の具体的な例として現代演劇やその他のアメリカの代表的な文化表象を取り上げ、それぞれの研究に即した理論的枠組みをもとに、現代のアメリカ社会において多様な文化的アイデンティティがどのように構築されてきたかを通時的かつ共時的に分析・検証する。	現代のアメリカ社会や文化の諸問題について、言語文化に焦点を当てて検討し、アメリカの言語文化に関する体系的な知識を獲得できる。	現代のアメリカ社会や文化の諸問題について、言語文化に焦点を当てて検討し、アメリカの言語文化に関する基礎的な知識を理解できる。
アメリカ文化研究VIII（言語文化）	国際学研究科 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	アメリカの言語文化に関する近年の研究動向や課題について学び、アメリカの言語文化の多様性やダイナミズムを体系的に分析する力を養う。授業では、主として現代の移民によって書かれた小説や演劇などを取り上げて、アメリカの言語文化に関する主要なテーマを検討し、そのテーマに関して書かれた英語資料を精読しながら、言語文化の解釈や分析の方法について講義とディスカッションを通して学ぶ。さらに、それぞれの専門領域に応じて、アメリカの言語文化に関するリサーチを行い、アメリカの言語文化がどのように形成されてきたかを歴史的、社会的コンテキストに沿って分析し、アメリカ文化史への理解を深める。	英語文献を正確に読み取り、的確に理解する力を身につける。その上でのアメリカの言語文化の形成のプロセスを歴史的・社会的に考察することで、アメリカ文化への理解を深めることができるようになる。	英語文献を読み取り、全体の要旨を理解する力を身につける。その上でのアメリカの言語文化の形成のプロセスを歴史的・社会的に考察することで、アメリカ文化を最低限理解できるようになる。
国際システム研究I（経済動向）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	国際システムについて高度の学識を獲得させるため、急速に変化する国際間のヒトの移動について、高度な学識を学びつつ、現在起きている、または今後起きうる問題の解決に資する調査・研究能力を養う。授業では、ヒトの国際移動（特に女性の国際労働力移動や女性が多くを占めてきた職種の国際労働力移動）について、その歴史的経緯や近年の実態、また各国の法制や諸施策、国際的取り組み等を詳細に把握しつつ問題の発見と分析に取り組む。	今日のグローバル化経済について、国際的な労働力移動の観点から分析・考察し、理解することができるようになる。（知識・理解） 今後起こりうる問題の解決に資する調査・研究能力を得る。（技能）	今日のグローバル化経済について、国際的な労働力移動の観点から分析・考察し、理解することができるようになる。（知識・理解）
国際システム研究II（経済動向）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	この講義では、国際貿易に焦点をあて、もし自分が国際貿易の論文を書くとしたら、どのような論文を書くか？ということを考える。具体的には、講義では国際貿易の様々なトピックの論文を読んだ上で、最終的に自分が論文を書くとしたらというプロポーザルを仕上げる。	専門文献を読み、国際貿易に関する知識、分析する上で経済学的手法を習得する。（知識・理解）（技能） 専門文献を自分の研究に繋げる力をつける。（思考・判断・表現）	専門文献を読み、国際貿易に関する知識、分析する上で経済学的手法を習得する。（知識・理解）（技能）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国際システム研究III（国際関係）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	国際関係論の英語研究文献を輪読し、国際関係の理論と実際に関する学識を深め、国際社会の秩序について分析する基礎能力を習得する。まず、国際社会における主権国家等の行動主体の特徴と様々な行動主体の相互関係について考察し、国際秩序・地域秩序を形成する原理・原則や規範について論じる能力を身につける。次に、様々な国際組織や国際制度、対外政策の形成などに関する理論について学び、具体的な事例から課題を見出し、解決策を考察する技法を習得する。	1. 国際関係論の英語研究文献を批判的に読み解き、自分の考えを述べることができる。（知識・理解） 2. 国際関係の具体的な事例から解決すべき課題を見だし、解決法を考察することができる。（思考・判断・表現）	1. 国際関係論の英語研究文献を正確に読み解くことができる。（知識・理解） 2. 国際関係の具体的な事例から解決すべき課題を見出すことができるようになる。（思考・判断・表現）
国際システム研究IV（経営）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	高度の専門性を要する国際ビジネスに必要な財務・会計に関する学識を授けつつ、それらの基礎・応用能力を培うことを目標とする。授業では、財務分析・企業会計に関するコアを固めた後、国際ビジネスにおける近年の変化や動向を踏まえ、国際会計基準・M&A・信用格付など、企業の国際化に伴い重要性が増している事項についての知識を習得させる。また、事例研究などを通して国際ビジネスにおける財務・会計についての理解を深めさせると同時に、それらを分析する思考方法の発展を促す。	国際ビジネスに必要な財務・会計について理解でき、専門的な分析ができるようになる。近時重要性を増すビジネス・イシューへの理解と事例研究等を通じ、世界的な経営環境の変化に伴う、わが国企業の国際展開を検討できるようになる。	国際ビジネスに必要な財務・会計について基礎的理解ができるようになる。（知識・理解）
国際システム研究V（経営）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	高度の専門性を要する国際ビジネスに必要な経営戦略に関する学識を授けつつ、それらの基礎・応用能力を培うことを目標とする。授業では、経営戦略に関するコアを固めた後、ビジネス展開の近年の変化（特にグローバリゼーションや情報化）を踏まえ、経営戦略についての高度な知識を習得させる。また、ビジネス・モデル、経営分析、経営の情報化などについての理解を深めさせると同時に、事例研究などを通して国際ビジネスに対する思考方法の発展を促す。	理論の持つ有効性と限界を把握することができるようになる。同時にケース分析をする上でのスキルならびにコンセプト導出の方法を使いこなせるようになる。	理論の持つ有効性を知り、ケース分析をさまざまな方法で行えることを理解する（知識・理解）
国際システム研究VI（経済社会課題）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	この講義では、グローバル経済における問題を取り上げ、その問題に関する文献を輪読し、ディスカッションを行う。輪読・ディスカッションを通じて問題を深く分析する力を養う。	専門文献を読み、グローバル経済に関する知識、分析する上での経済学的手法を習得する。（知識・理解）(技能) 学んだ理論を応用して自ら様々な問題を分析出来るようになる。（思考・判断・表現）	専門文献を読み、グローバル経済に関する知識、分析する上での経済学的手法を習得する。（知識・理解）(技能)
国際システム研究VII（経済社会課題）	国際学研究科 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	事例を参照しつつ、経済社会を横断するジェンダー問題について、それを整理し解決につなげる思考方法を発展させることにより、応用・分析能力を培うことを目標とする。授業では、近年の様々な国際経済社会の諸課題について、具体的事例研究（少子・高齢化問題、経済社会のサービス・情報化問題、外国人労働問題、非正規労働の拡大問題、ワーク・ライフ・バランス問題等）で、ジェンダー視点からの分析・考察をしつつ、関連する学識を得る。	近年の様々な国内的・国際的経済社会の諸課題について、文献の講読と関連資料の収集・分析により、各課題の構造的な問題性、地域性、歴史的特徴、ジェンダー問題等を考察し、論じることができるようになる。（知識・理解）(思考・判断・表現)	近年の様々な国内的・国際的経済社会の諸課題について、文献の講読と関連資料の収集・分析により、各課題の構造的な問題性、地域性、歴史的特徴、ジェンダー問題等を理解する。（知識・理解）
国際協力研究I（グローバルガバナンス）	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	1・2	2	開発のマクロ経済学を取り扱う。具体的には、2部門経済発展モデルやライフサイクル向上所得仮説の検証などの経済学のマクロ分析手法や、ゲーム理論などの国際政治経済学の理論用具を学習し、グローバルな経済成長・経済発展の精深な理解を図る。これにより、大学院レベルの国際開発学・開発経済学に関する深い理解と、これに基づく関連分野の論文の読解・執筆に足る分析能力・知識を涵養する。	グローバルに見た途上国の経済成長・経済発展について、科目で取り扱われた理論やモデル、分析手法を深く体得している。 大学院水準のモデル分析やゲーム理論における数理的な能力を高く持っている。	グローバルに見た途上国の経済成長・経済発展について、科目で取り扱われた理論やモデル、分析手法を体得している。 大学院水準のモデル分析やゲーム理論における数理的な能力を持っている。
国際協力研究II（グローバルガバナンス）	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	1・2	2	国際社会を規律する国際法を体系的に理解することを目的とする。国際協力の基礎をなす国家についての理解を深め、かつ、自らの修士論文に必要な資料を読み進め、議論を深める。	国際法体系全体を総合的に理解し、自らの論文のテーマをその中に位置づけるとともに、国際法体系の深化に寄与するような思索をめぐらせる。	国際法体系の基礎を理解できる。自らの論文のテーマについて、概要を把握し、議論を通じて深めることができる。
国際協力研究III（グローバルガバナンス）	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	1・2	2	環境問題、平和と紛争問題、貧困問題、経済危機などの課題の背景や現状を分析する。グループ討論やレポート発表を通じ、これらの課題に国際社会としてどのように取り組むべきかを考える。	科目内で取り上げられたグローバルな課題の内容に基づき要因や解決策の方向性を深く分析できるようになる。	科目内で取り上げられたグローバルな課題の内容に基づき要因や解決策の方向性を分析できるようになる。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
国際協力研究Ⅳ (サステナビリティ)	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	1・2	2	サステナビリティをめぐる内外の課題や取組みを一つまたは複数取り上げて、必要に応じて外国語の文献も活用しながら、社会科学的アプローチで分析するとともに自分なりの考察を盛り込んだ発表またはレポート作成を行う力を身に付ける。	研究テーマとして選んだサステナビリティをめぐる内外の課題や取組みについて、必要に応じて外国語の文献も活用しながら、社会科学的アプローチに基づく分析および自分なりの考察を十分盛り込んだ、発表またはレポート作成を行うことができる。(知識・理解)	研究テーマとして選んだサステナビリティをめぐる内外の課題や取組みについて、必要に応じて外国語の文献も活用しながら、社会科学的アプローチに基づく分析および自分なりの考察を最低限盛り込んだ、発表またはレポート作成を行うことができる。(知識・理解)
国際協力研究Ⅴ (サステナビリティ)	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	1・2	2	持続可能な開発の概念を、それが先進国と開発途上国のコンセンサスとなるに至った経緯を含めて理解する。持続可能な開発に向けた開発における最大の課題である地球温暖化の科学の主要争点について、自分の判断ができる力を身に付ける。地球温暖化対策の経済学的な議論における、世代間の公平や現在価値の計算・割引率などの理論の基本を理解する。関連の英語文献を、英語で読む力を身に付ける。	持続可能な開発の概念を、それが先進国と開発途上国のコンセンサスとなるに至った経緯を含めて十分説明できる。(知識・理解) 持続可能な開発に向けた開発における最大の課題である地球温暖化の科学の主要争点について、自分なりの判断を十分できる力を示せる。(思考・判断・表現) 地球温暖化対策の経済学的な議論における、世代間の公平や現在価値の計算・割引率などの理論の基本を十分説明できる。(知識・理解) 関連の英語文献を、英語で読む力が十分身に付いていることを示せる。(技能)	持続可能な開発の概念を、それが先進国と開発途上国のコンセンサスとなるに至った経緯を含めて最低限の説明できる。(知識・理解) 持続可能な開発に向けた開発における最大の課題である地球温暖化の科学の主要争点について、自分なりの判断を最低限できる力を示せる。(思考・判断・表現) 地球温暖化対策の経済学的な議論における、世代間の公平や現在価値の計算・割引率などの理論の基本を再g提言最低限説明できる。(知識・理解) 関連の英語文献を、英語で読む力が最低限身に付いていることを示せる。(技能)
国際協力研究Ⅵ (南北問題)	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	1・2	2	開発のミクロ経済学を取り扱う。近年の途上国に関する開発経済学の進展を踏まえ、貧困家計分析や教育の収益率分析、マイクロファイナンスに関する2期間モデル、実験・行動経済学的手法の深化など、開発ミクロ経済学の精深な理解を図る。これにより、大学院レベルの国際開発学・開発経済学に関する深い理解と、これに基づく関連分野の論文の読解・執筆に足る分析能力・知識を涵養する。	貧困分析を始めとした様々なミクロ開発経済理論や数的手法について深く理解している。 大学院水準のミクロ経済分析に必要な数的手法を深く身に付けている。	貧困分析を始めとした様々なミクロ開発経済理論や数的手法について理解している。 大学院水準のミクロ経済分析に必要な数的手法を身に付けている。
国際協力研究Ⅶ (南北問題)	国際学研究科 国際社会系科目 国際協力研究	1・2	2	南北問題および開発NGO事業の理解に必要な専門知識を習得し、個人のキャパシティー・ビルディングをはかることを目標とする。90年代以降の開発コミュニティの最大の変貌は南、北それぞれの開発NGOの発展であり、グラスルーツからアドボカシーへの活動の拡大にある。授業では、NGO活動の実際、NGOの組織・経営、NGOネットワーク、内外政府、国際組織、企業との連携などを分析し、今後の課題と展望を考察する。	開発問題とNGOの活動を多角的な視点から深く理解している。	開発問題とNGOの活動を多角的な視点から理解している。
フィールドワークⅠ	国際学研究科 関連科目	1・2	2	学生は事前に、調査の目的、調査の方法、調査先などを記した現地調査計画を提出する。それに基づいて教員が適宜指導し、教員の承認の下に、1週間程度の現地調査を実施する。実施後、学生は、調査内容とその結果について必要事項を記載した報告書を教員に提出し、承認を得る。	地理学や社会学や文化人類学などのディシプリンにおいて、現代の社会や文化を研究するのに欠かすことのできないフィールドワークの技法について、実施しつつ身につけ、それにより種々の調査が十分な正確さをもってできるようになることを目標とする。	地理学や社会学や文化人類学などのディシプリンにおいて、現代の社会や文化を研究するのに欠かすことのできないフィールドワークの技法について、実施しつつ身につけ、それにより種々の調査ができるようになることを目標とする。
フィールドワークⅡ	国際学研究科 関連科目	1・2	2	学生は事前に、調査の目的、調査の方法、調査先などを記した現地調査計画を提出する。それに基づいて教員が適宜指導し、教員の承認の下に、1週間程度の現地調査を実施する。実施後、学生は、調査内容とその結果について必要事項を記載した報告書を教員に提出し、承認を得る。	「フィールドワークⅠ」を踏まえ、さらに1週間程度の現地調査を行うことにより、フィールドワークの実践力をいっそう高め、研究や修士論文執筆に役立たせることを目標とする。	「フィールドワークⅠ」を踏まえ、さらに1週間程度の現地調査を行うことにより、フィールドワークの実践力を高め、研究や修士論文執筆に役立たせることを目標とする。
インターンシップ	国際学研究科 関連科目	1・2	2	授業は教員および学園が紹介し、相手の企業・団体との許可を得て、実習を実施する。その内容は、相手の企業・団体からの報告書、および本人の報告書において記載させるとともに、実施後、報告会を開催して報告させる。	国際学について高度な学識を獲得させるため、実際の現場で仕事を体験することを通じて、国際的諸問題の所在、対応策について理解を大いに深め、研究への意欲を高めることを目標とする。	国際学について高度な学識を獲得させるため、実際の現場で仕事を体験することを通じて、国際的諸問題の所在、対応策について理解を深め、研究への意欲を高めることを目標とする。
国際文化交流研究Ⅰ(文化政策)	国際学研究科 関連科目	1・2	2	国際関係は、狭義の政治や経済に限定されるものではなく、そこにおいて文化が果たす役割も少なくない。このことは世界遺産を認定するユネスコのような国際文化機関についても当てはまるし、留学生受け入れ・交換や姉妹都市など広範な領域に及ぶ国家間や地域内の文化交流・教育政策やそれを支える社会組織についても言い得ることである。本科目では、こうした文化交流を切り口とした国際関係の構築、制度化や内実にかんして、具体的な事例を題材としてとりあげつつ考察する。	国際関係を文化交流の視点から分析し、文化政策の実際を研究して、さらに実践的に取り組むための力を養成することができるようになる。	国際関係を文化交流の視点から分析することができる(知識・理解)。文化政策について考察して、さらに実践的に取り組むための力を養成することができるようになる。

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
国際文化交流研究II (日本における外国人)	国際学研究科 関連科目	1・2	2	日本に居住する外国人が置かれている社会状況、あるいはその文化活動について考察し、文化交流の在り方を考える。具体的には、主に在日コリアン、在日中国人、在日日系ブラジル人を取り上げて考察する。日本にもっとも多い外国人の集団だが、この中には旧植民地の時代から在住している特別永住資格を持っている人々、日本人の子孫である日系人、留学などの目的で最近来日した人々などがあり、受入れのあり方は多様である。	国内において外国人とホスト社会である日本の社会がどのように向き合っているのか、日本の近代から現代にかけての専門的な知識をもとに理論的に説明できる。(知識・理解)	国内において外国人とホスト社会である日本の社会がどのように向き合っているのか、日本の近代から現代にかけての専門的な知識をもとに一定程度理論的に説明できる。(知識・理解)
国際コミュニケーション研究I	国際学研究科 関連科目	1・2	2	国際コミュニケーションの手段として世界各地で使用されている国際共通語としての英語 (World Englishes) に関する高度な学識を身につけることを目標とする。英語は、母語話者の英語のENL (English as a Native Language)、公用語、第二言語としての英語のESL (English as a Second Language)、そして国際コミュニケーションの手段としての英語のEIL (English as an International Language) に分類できる。これらは背景となる民族・文化・社会の影響により多様な変種を持っている。授業では、歴史的観点、民族・文化的観点、言語変種としての観点などから英語の多様性に関する様々な問題について考察し、さらに日本における英語活用の方法や方向性、そして今後の展望などについて研究する。	This course will examine English as an international language: the role of English as a native language, an official or semi-official language, and, most important in the age of globalization, an important means of communication between non-native speakers.	Students will gain an understanding of the role of English in the world.
国際コミュニケーション研究II	国際学研究科 関連科目	1・2	2	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を研究し、世界の人々と円滑なコミュニケーションを実現できる能力を身につける。授業では、国際協力や文化交流などにおける様々な状況一会議、交渉から個人的関係まで一を想定し、そこに生じうる諸問題や課題について学習することにより、英語と地域言語との関係を踏まえつつ、コミュニケーションの成立あるいは不成立の状況を考察する。それと共に、一人ひとりの国際コミュニケーション能力を向上させる。	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を研究し、世界の人々と円滑なコミュニケーションを実現できる能力を養う。	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を理解する。
地域研究論II	国際学研究科 関連科目	1・2	2	グローバル化の進行は、世界の諸課題をグローバルな視点から分析する重要性を私たちに認識させた一方で、国民国家などの既存の体制の再構築を促すことで、潜在的なローカルの重要性を再認識させた。この授業では、諸地域におけるローカルな差異、そしてそれぞれのローカリティの特徴、これらを理解するための専門的知識を習得する。	1. 地域地理学に関する専門的な知識を用いて多様な地域現象を理論的に説明できるようになる。(知識・理解) 2. 様々な地域を地域地理学の専門的知識に準じて理論的に説明できるようになる。(知識・理解)	1. 地域地理学に関する専門的な知識を用いて特定の地域現象を一定程度説明できるようになる。(知識・理解) 2. いくつかの地域を地域地理学の専門的知識に準じてに一定程度説明できるようになる。(知識・理解)
国際学演習I	国際学研究科 演習科目	1	2	研究テーマに関し研究文献を探索すること、そのうちどの文献が基本となる研究文献であるか、また依拠すべき基本資料であるかを理解する。こうして得られた基本となる研究文献、依拠すべき基本資料について、少しずつ学生が読み、それを毎回報告する。	研究テーマに関係する研究文献を調査収集し、基本となる文献について正確に理解できるようになる。	研究テーマに関係する研究文献を調査収集し、基本となる文献について概要を理解できるようになる。
国際学演習II	国際学研究科 演習科目	1	2	基本的には、「国際学演習I」の継続であるが、より速くより多くの文献を読み進め、修士論文のテーマを固める。	「国際学演習I」を踏まえて、さらに十分に理解を深め、より多くの知見を修得できるようになる。	「国際学演習I」を踏まえて、さらに理解を深め、多くの知見を修得できるようになる。
国際学演習III	国際学研究科 演習科目	2	2	修士論文の作成に向けて、調査研究した内容を順次報告する。まだ構想が完成している段階ではないので、報告しつつ構想を練り直していく。7月下旬の修士論文構想発表会までに論文としてまとめるに足る構想を完成する。	修士論文の構想を完成させることができる。	修士論文の構想を固めることができる。
国際学演習IV	国際学研究科 演習科目	2	2	完成した構想に基づいて、論文を執筆していく。教員のコメントに対し、書き直すという過程を繰り返して、論文を完成させる。	「国際学演習III」を踏まえて、完成度の高い修士論文を書き上げることができる。	「国際学演習III」を踏まえて、修士論文を書き上げることができる。